

平成24年秋の叙勲

瑞宝単光章を受章

辻澤 廣さん(金山)

永年にわたり町の消防団業務に尽力された辻澤廣さん(金山)が叙勲(瑞宝単光章)を受章され、11月30日役場において、巻口北海道上川総合振興局副局長から伝達されました。

辻澤さんは、昭和41年7月に当時の南富良野村消防団に入団以来、班長、部長を経て平成8年2月に副分团长となり、平成15年3月に退団されるまで36年9ヶ月の永きに渡り消防団員として、町民の生命と財産を守るために尽力されました。

在任中、火災発生時にはいち早く現場に駆けつけ消火活動にあたりました。また、火災の発生しやすい時期には、夜間の広報により



り予防活動を実施するなど昼夜問わず不断の努力をされ、特に副分团长に就任されてからは、団員の教育訓練や指導育成に努められ、団員の士気と資質の向上に尽力されました。

これまでも、日本消防協会長表彰などを受賞されており、この度の栄誉は、こうした永年の功績が高く評価されたものであります。

辻澤さんは、この度の受章に「受章には、本当に驚いています。ありがとうございます。」と述べています。

また、これまで団員としての責務の遂行にご協力くださいました団員の皆様、地域の皆様に感謝しています」と述べられました。

千葉 正彦さん(北落合)

永年にわたり国勢調査員として尽力された千葉正彦さん(北落合)が、叙勲(瑞宝単光章)を受章され、12月11日役場において、巻口北海道上川総合振興局副局長から伝達されました。

千葉さんは、昭和29年に北落合に入植され5年毎に実施される国勢調査に、昭和35年から平成17年までの50年間に9回(国勢調査はこれまで19回実施)調査員として従事されました。

国勢調査は、日本に居住している全ての人及び世帯を対象として実施されるもので、その結果は、行政をはじめ民間企業や研究機関などでも広く活用される国の最も重要かつ基本的な統計調査です。

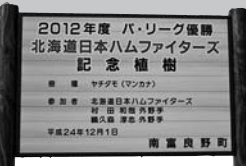


や家族の理解のもと、ここまで責務を遂行することができ、皆様に感謝しています」と述べられました。

これまでも、北海道社会貢献表彰や総務大臣表彰などを受賞されており、この度の栄誉は、こうした永年の功績が高く評価されたものであります。

千葉さんは、この度の受章に際し、「地域の皆さんのご協力

北海道日本ハムファイターズとの記念植樹・野球教室



北海道日本ハムファイターズと小中学生との「記念植樹」「野球教室」が12月1日に行われました。

今年度は、日本ハムファイターズのパークリーグ制覇に貢献した、チーム一の俊足・好打が持ち味の村田和哉外野手とファイターズ屈指の右の長距離砲、鶴久森淳志外野手を招いて、町内の小中学生と、空知川を通じた水源交流を行っている滝川市の野球少年団も参加して交流を深めました。



植樹されました。

「野球教室」は、会場を南富良野高等学校体育館に移して行われ、両選手がユニホーム姿で現れると、子ども達や見学にきた多くの観客は、拍手と憧れのまなこで迎えました。

「野球教室」は、会場を南富良野高等学校体育館に移して行われ、両選手がユニホーム姿で現れると、子ども達や見学にきた多くの観客は、拍手と憧れのまなこで迎えました。



さして見せていました。

両選手の紹介の後、講師となつて子ども達と一緒にキャッチボールやフライの捕球の仕方、ゴロの処理、そして、トスバッティングなどが行われ、プロ野球選手からのアドバイスに真剣に耳を傾けていました。



鶴久森選手(背番号44)

村田選手(背番号51)



また、鶴久森選手は小学

守備練習では、両選手とも外野手ということもありフライの捕給の仕方、ゴロを捕球し素早く返球、バウンドに合わせたゴロの処理の仕方などを行い、返球を受けた選手からは「ナイスボール」という声が館内に響いていました。

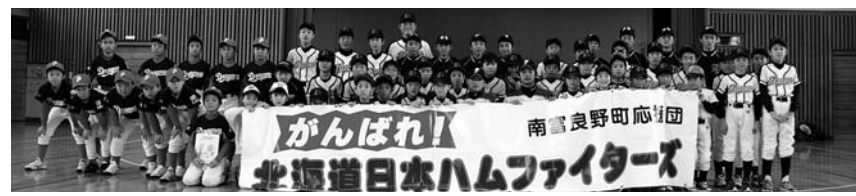
打撃練習では、トスバッティングを行い、ミートポイントを意識した練習を行いました。顔を残り、体は突っ込むことなくバッティングを行うようにと選手から指導を受け、鶴久森選手自らが、トスバッティングを行い、鋭く速いスイングに子ども達は驚いていました。

また、鶴久森選手は小学

生時代には、毎日400回の素振りや欠かさず行っていたことなど、日頃の練習の重要性を伝えていました。

最後に、参加した子ども達を代表し、南富良野中学校野球部、柴田俊一主将(2年生)から「今日学んだことを明日からの練習に生かしていきたい」とお礼のあいさつが述べられました。

野球教室終了後サイン会が行われ、両選手からサインをもらい握手をした子ども達は、笑顔で両選手に感謝を述べ、夢と希望が膨らんだ様子でした。



村田選手がやって来た 鶴久森選手